



**JASDAQ**

平成 27 年 8 月 17 日

各 位

長野県伊那市西箕輪 2148 番地 188  
株式会社イナリサーチ  
代表取締役社長 中川賢司  
(コード番号: 2176)  
問い合わせ先: 執行役員 総務部長 野竹文彦  
電話番号 0265(73)6647

## iPS 細胞を用いた再生医療技術の開発について

当社は、かねてより心筋梗塞の新たな治療法の確立を目的として、国立大学法人信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所（齋藤直人所長）の柴祐司講師の研究チーム（以下「柴研究チーム」という）との共同研究を進めてまいりました。この度一定の成果が確認できましたので、お知らせ致します。

### 1. 研究の経緯と今後の見通し

当社は、平成 25 年 5 月 1 日付で信州大学医学部と「心筋梗塞に対する iPS 細胞由来心筋細胞移植療法の開発」に関する共同研究契約を締結し、拒絶反応の少ない MHC 統御カニクイザル(注)、専用の試験施設、3D マイクロ CT スキャン装置等の最新機器及び豊富な試験経験を持つ技術者を柴研究チームに提供してまいりました。

柴研究チームは当社リソースを用いて iPS 細胞から作製した心筋細胞を心筋梗塞部に移植する事により、心臓の機能を取り戻そうとする研究を進めておりましたが（平成 26 年 11 月 12 日付既報）、この度当試験が予定期間を迎え、当該心筋細胞について当初目標の移植 12 週間以上の生着を確認し、マイクロ CT 等により心機能の改善が確認されました。心筋梗塞の後遺症等により心不全リスクを抱える患者にとって、画期的な治療法となることが期待されます。

今後も柴研究チームとの共同研究を継続し、早期の医療技術化に向けて更なるテーマに取り組んでまいります。

### 2. 業績への影響

本件の成果により、再生医療技術の開発者の間に MHC 統御カニクイザルの有効性について認知度が高まり、今後様々な再生医療研究のステージで需要の拡大が見込まれます。当社グループの業績に対しては、各種受託試験の増加、レンタルラボ稼働率の向上、共同研究の増加、研究より得られる知財の活用、といった貢献が期待されています。

当期においては本件が当社グループの業績に与える影響は軽微であります。来期以降の業績への影響については現在算定中であります。

## 用語の説明

### (注) MHC 統御カニクイザル

現在、京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥教授提唱のもと、ヒトの免疫遺伝子型 (HLA) を合わせて移植を行う事を前提とした iPS 細胞ストック構想が進められております。

本 MHC 統御カニクイザルは当社と東海大学が共同で開発した遺伝子解析方法に基づき、免疫に関わる遺伝子型を揃えたカニクイザルを指します。上記構想に基づく iPS 研究に適合したヒトにいちばん近い試験系として、さらにその他免疫反応に関わる医薬品の開発や、新たな移植技術の確立用途としてその利用価値が評価されており、現在、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の A-STEP 事業として研究と計画生産を推進しながら、移植・再生医療技術の開発やバイオ医薬品開発を進める複数の大学や研究機関に対して弊社より供給を実施しております。

以 上